

目の前の子どもを喜ばせたい…



かつて、地域の方に夏休み、『ぐりとぐら』の絵本を読みきかせをしていただくとともにこの話に出てくるケーキを親子で作って食べるという機会を作っていただきました。恥ずかしながらそこで私はこの絵本と出会いました。皆さんは『ぐりとぐら』という絵本をご存じでしょうか？現在では10か国語に翻訳され、世界の子どもたちにも読まれている話です。作者の中川李枝子さんはもともと保育士としてスタートを切られたそうです。目の前の

園児を喜ばせたい…この思いで『ぐりとぐら』を書かれたといわれています。

私たち小学校の教員は、みな「子どもたちに授業を通して目の前の子どもに学ぶ楽しさを伝えたい…友だちと過ごすことの楽しさを伝えたい…」そう思って日々、授業の計画や準備を夜遅くまでしています。放課後、職員室で「〇〇さん、元気になってくれるにはどうすればよいのかな」と職員同士で話をしていることもよく見かけます。学校から帰っても頭で考えていることも少なくありません。私も担任の頃は毎日、そうやって考えていました。「目は心の窓」とは心理学者アイゼンク・Hの言葉です。うまく、いくこともいかないことも様々ですが、教師がそうやって毎日、「目の前の子どもたちを喜ばせたい…」と書いて子どもたちと関わっていることは、今はうまくいかななくても必ず子どもたちに伝わっていく…1年後か10年後か分かりませんが。そう信じています。保護者も担任も「子どもによくなってほしい」「大きく成長してほしい」という思いは同じだと思います。これからもどうぞ、子どもたちの成長のために学校教育にご理解とご協力をお願いします。

家庭訪問にお邪魔しております



7日（火）より担任が家庭訪問に回らせていただいております。もう、すでに終わられたところ、まだ、これから訪問させていただくところがあるかと思います。お忙しい中、お時間の都合をつけていただき有難うございました。保護者の皆様と本校教職員が普段から連携をし、同じ方向を向いてお子さんの成長を見守っていくことが何より大切だと考えています。今回の家庭訪問はその第一歩となれば何よりです。ご協力有難うございました。